

プログレスコース・プロジェクト報告書
株式会社ウィングロッサリー
学生向けワインセミナー 企画、開催

1. プロジェクトの目的

株式会社ワイングロッサリーは約 3000 種のワインを取り扱うワイン専門店である。店頭、インターネット、京都の飲食店になど、幅広く販売している。ワインの品質、クオリティにこだわりを持つ株式会社ワイングロッサリーでは、ワイン教室を開催している。今回のプロジェクトは、このワイン教室の 1 種として行われた。

なぜ、学生向けのセミナーを行うのか、原因として、ワイングロッサリー様で行っているワイン教室には 40 代などの中高年の方が多く参加しているが、若い世代の参加率が低いことがある。酒離れが若い世代に起こっている現状を少しでも改善し、ワインについて理解を深めてもらいたい。そして私たち大学生がワインを飲む機会が増え、これからの人生に深みをもってもらいたいという考えからプロジェクトが開始された。

2. 学生セミナーについて

学生セミナーは、20 歳以上の大学生を対象に 10 月 28 日に行った。価格は一人 2500 円と実際にお金を頂くものとなっている。白ワイン 2 種、赤ワイン 2 種、デザートワイン 1 種という計 5 種類のワインを試飲でき、且つ、パンとチーズを出した。加えて、セミナー以降も楽しんでいただけるよう、お土産にワイン 1 本、グラスを 1 脚プレゼントした。なお、今回 5 種のワイン、お土産用ワインは全て私たち学生が選んだものである。場所はワイングロッサリー様が実際のワイン教室で使用するセミナールームを使用した。人数は予算、一人当たりが多く試飲できるよう考慮し、14 名とした。

3. 学生セミナー開催までの活動

学生セミナーを開催までに行った活動を以下のようにしている。また、プロジェクト活動開始は 6 月 22 日からである。

◎6 月～7 月までの活動

- ・活動計画
- ・セミナー内容の計画
- ・チラシの作成
- ・ホームページに使用する文章作成の手伝い

◎8 月～9 月までの活動

- ・チラシの改善
- ・実際の仕事を体験
- ・試飲会、初級セミナーに参加
- ・セミナー資料作成

◎10 月の活動

- ・各種資料完成
- ・セミナー内容の修正、最終調整

6月～7月の活動では、初めにセミナー開催日を決定し、そこから必要となる行動計画を立てた。その後、セミナーの内容大まかに決定した。私たち自身、この時点ではワインについて全く知識がない状態であったため、実際に過去に行われた学生セミナー、ワイングロッサリー様が行った初級セミナーを参考に内容を決定した。加えて、知識のない私たち自身がワインについて何を知りたいかが大学生が求めるものと同じ、もしくは似ているのではないかという考えにより意見を出し合った。そして、大学生に分かりやすく、楽しめるセミナーにするということを中心に考えることとなった。次に集客のために、チラシの作成を行った。しかし、完成したチラシは大学生に向けてはデザインや文章が硬い、一目見るだけでは分かりづらいといった意見を頂き、再度作り直すこととなった。改善前、改善後のチラシはそれぞれ図1、図2として8月～9月の活動説明後に示す。ワイングロッサリー様のホームページに学生セミナーのページを作る際に使用する文章も作成を一部行った。

8月～9月の活動では、初めにチラシの改善を行った。問題点としては先ほどのような点に加え、敷居が高く感じることから服装などの情報も入れるべきという指摘があった。改善方法として、指摘のあった情報を加え、デザインは手書きのイラストなどを入れ、ポップで分かりやすいデザインにした。以下、図1、図2に示す。次に実際の仕事を体験させていただいた。ワインは多くのものが輸入品であるため、ボトルなどにひび割れなどの破損、ワインの種類などを示したエチケットと呼ばれるラベルが破れたり、汚れが付着していないかなどの検品、配送に同行させていただいたり、マーケティングを学びたいメンバーのためにWeb広告などの仕事をさせて頂いたり、事務作業など様々な仕事をさせて頂いた。また、他の会社と行う合同の試飲会、ワイングロッサリー様が実際に行っている初級セミナーに参加した。初級セミナーでは、学生セミナー当日の準備や行動計画、必要な作業などを想定することができた。加えて、これらに参加したことで、学生セミナーで使用する5種のワイン、お土産用のワインを決定する大きな役割となった。最後に資料作成は、参加した試飲会、初級セミナーを基に必要なパワーポイント、資料などの作成を進めた。



図1：改善前のチラシ



図2：改善後のチラシ

最後に 10 月の活動である。まず、8 月、9 月に引き続いての学生セミナーで使用する各種資料を完成させた。資料作成に伴い、当初の目的であった分かりやすさを重要視した。その結果、改善したチラシで使用した手書きイラストの経験を活かし、資料に取り入れることで資料を完成させた。以下、図 3、図 4 に資料を示す。最後に、セミナー内容の修正、最終調整である。作成した各種資料とセミナー内容を確認し、リハーサルを行い、追加・改善すべき内容を考え、セミナー当日前まで行った。

世界各地のワイン

ワインは現在、世界各地で製造されています。昔からワインを造っているフランスやイタリアなどの国を【旧世界(オールドワールド)】と呼び、最近ワインを造り始めたアメリカ、ニュージーランド、チリなどの国を【新世界(ニューワールド)】といいます。日本は新世界に分類されます。

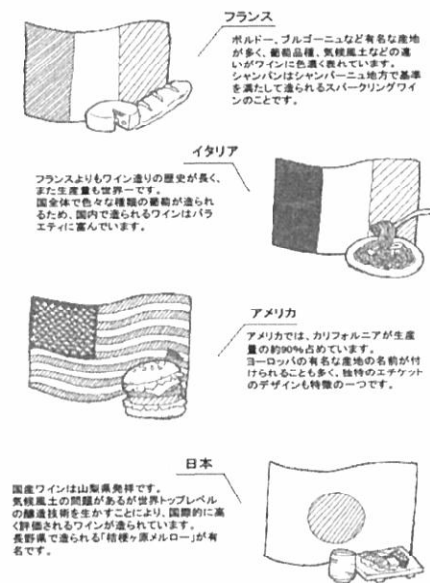


図 3：セミナー用資料①

マリアージュ

ワインと料理の組み合わせは、無限に存在するといえるでしょう。料理は家庭料理からレストランで提供される各国の料理とその組み合わせは種々です。素材、味付け、付け合わせのどこに重点を置くかによってもワインの選択は違ったものになってきます。

- 軽い、あっさりした料理には軽いワイン、コクのある濃い味付けの料理にはしっかりとしたワイン
- シンプルなお料理にはシンプルなワイン、手の込んだ料理には複雑味のあるようなワイン
- 料理とワインの生産地を合わせる
- 料理とワインの格を同等にする
- 色で合わせる



図 4：セミナー用資料②

4. セミナーを行った結果

セミナーでは参加者にアンケートを実施し、満足度、参加後のワインに対する印象などを調査した。ワインの印象がセミナーを受ける前より変化した人は参加者全員を達成した。以下に変化した理由を示す。

- ・漠然と赤、白しか区別してなかった、飲み比べる機会がなかった
- ・飲み比べることで品種、産地ごとの味の違いが感じられた
- ・葡萄を使った洋酒の 1 種という認識だったが知識を深めることができた
- ・難しいものと思い、飲まなかったがシンプルで美味しく色々なワインを飲んでみたい
- ・ビールやチューハイと違い、敷居が高く感じていたが学んでみると奥深く興味深い
- ・ワインはどれも同じものかと思っていたが、全てが一転するくらい見る目が変わった

次にセミナー参加者の満足度と理由を以下に示す。

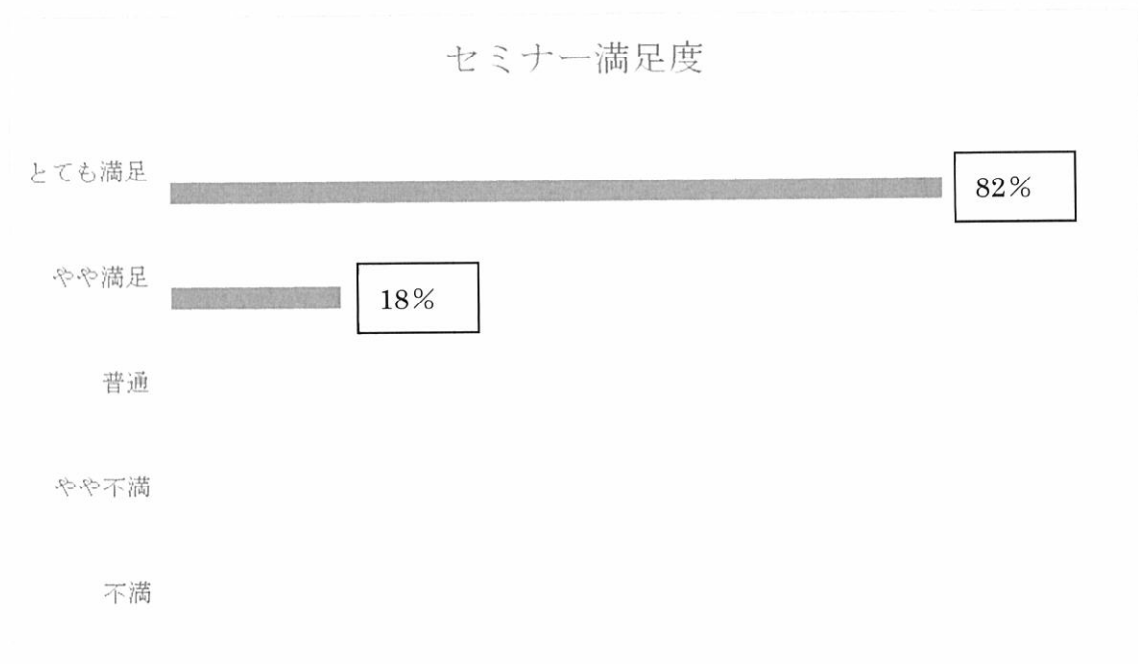


図5：セミナー満足度

セミナーに満足した理由

- ・5種の代表的なワインを分かり易く、参考になった
- ・ワインに興味を持てた
- ・テイスティングの機会がないから
- ・楽しみながら知識を増やせた
- ・全く知らなかったが一から知れた
- ・自分がどのタイプが好きなのか知れた
- ・質問で分かり易く説明を受けることができた

参加者が他に知りたいことについて以下に示す

- ・色んなワインについて
- ・アルコールが苦手な人はどのように楽しむか
- ・世界におけるワインの主流や値段の移り変わり、ワインを取り巻く社会や経済について
- ・より詳しい品種の解説

5. 学生セミナーを終えて

ワインを飲む学生、人が減っている原因として、酒離れに加え、美味しいワインを飲む機会、味を知るための簡単な知識が共に少ないため、手軽に安価で買えるチューハイやビールを飲むことにつながっている。また、普段目にするテレビなどメディアで取り上げられるワインが、いずれも学生だけでなく社会人でも手の届かないかなり高額なワ

インが多いため敷居が高く感じるのではないのかと考える。セミナーを受けた方に話を聞くと、現在は頻繁には買えないが、今後色々なワインを飲んでみたい、と言っていた。そしてアンケート結果も踏まえ、当初の目的は達成できたと考える。ワインは考えているほど難しいものではなく、美味しいと感じてくれた今回のセミナー参加者を起点にワインを飲む人が広がる手助けが微力ながらできたと考える。

6. プロジェクトを終えて

全くワインについて知識のない私たちを快く受け入れてくださり、とても感謝しています。約5ヶ月でワインだけでなくワイングローサリー様の社員の皆様の仕事に取り組む姿勢など、これから社会人となる私たちに多くの知識や経験の機会を与えて頂きました。本当にありがとうございました。